

学校・教育グループ

学校・教育グループの質問を始めます。

私たちのグループは、県議会に関することや、英語教育の充実、タブレットの導入について話し合いました。

このことについて、3つの質問をしたいと思います。

質問1 党が違う場合の意見の取りまとめ方について

党の政策が違い、行っていきたいことや考えが異なったときに、議会の場では意見がぶつかってしまうことが多くあると思います。

全県民が見る場でお互いの主張を言い合うのはよいことだと思います。しかし、広島県議会として意見を一つに取りまとめないといけないときもあると思いますが、どのようにして意見をまとめておられるのですか。そこで気をつけておられることはありますか。

答弁（沖井議会改革推進委員長）

政策づくりを目的にしたグループを、議会では、党と呼ぶかわりに会派と呼んでおりますが、広島県議会では8つの会派があります。

御質問にございましたように、議会では、考え方などが異なったとき、各会派の意見が衝突することがありますが、特に、知事の提案に賛成か反対かについて、議会としての判断を決定するために用いられるのが多数決であります。

一方、多数決ではなく、会派の意見の一致が必要となるものに、議員の提案による条例案、議会が国に対する要望として提出する意見書案など、議会として作成する文書があります。その際、よく用いられるのが、各会派がお互いに歩み寄るための言葉の修正や削除であります。例えば、ある会派が、この取り組みは効果があった、別の会派が、この取り組みは余り効果がなかったと主張した場合、両者が、この取り組みはある程度効果があったという表現にすることによって歩み寄るといったものです。また、ある会派にとっては望ましいが、ある会派にとっては望ましくない言葉で、必ずしも盛り込む必要のないものは、あえて削除するといったやり方も、よく用いられます。

そのように意見をまとめる際、私として気をつけていることが2点あります。1つは、お互いの立場を尊重し、考え方を理解しようとする調和の精神、そして、もう一つは、正確な知識であります。そもそも、お互いがテーブルにつき、歩み寄り、まとめようという気持ちがなければ、何事も進みません。また、そうした気持ちがあっても、相手の考え方を理解するだけの知識がないと、誤解につながる可能性があります。逆に、正確なことを調べていくうちに、相手の言い分がもっともであることがわかり、こちらから修正するケースもあります。

調和の精神及び正確な知識は、議会のみならず、どの世界においても求められるものであり、今後も大切にしていまいりたいと存じております。

質問2 英語教育の充実について

来年の東京オリンピック・パラリンピックでは、これまで以上に海外の方が来日し、広島県に来られる方もふえると思います。

最近では翻訳アプリもあるので、観光客との会話は充実するのですが、機械ではなく、片言であっても人と人が直接会話し触れ合うことで、温かみのあるおもてなしにつながると思います。そうすると、海外の方が安心して広島県に来ることができ、観光客もふえると思います。

そのためには、日常会話で英語が飛び交うような広島県になったらいいと思います。現在、小学校5年生から週1時間の英語の授業があります。来年度からは、5・6年生は週2時間にふえ、3・4年生も週1時間の英語授業が始まります。

そこで、3つの提案があります。

1つ目は、英語を習うなら、授業を英語で行うのはどうでしょうか。英語を使う機会がふえることで、日常的に英会話ができるようになると思います。

2つ目は、現在、外国語指導助手のALTの方が月に1回英語を教えに来てくださいますが、時間が少ないため、肝心の英語でのやりとりができていないと思います。

そこで、授業の前に、例えば、外国の旅行者に宮島を紹介する場面や、行きたい国のことなど、テーマを決めて、4～5人のグループで勉強し、わからなかったことやもっと知りたいことをALTに聞く学習スタイルにしてはどうでしょうか。限られた時間を有効に活用できると思います。

3つ目は、校外学習で、宮島や平和公園など海外の観光客がたくさん訪れる場所に行ったり、英語圏の国に修学旅行に行くなど、直接英語で会話する機会をつくっては

いかがでしょうか。習ったことが実際に使えると、子供も楽しいと感じてもっと勉強するようになったり、広島県の英語教育のレベルが自然と上がると思います。

答弁（教育長）

社会が急速にグローバル化し、さらには来年、東京オリンピック・パラリンピックが開催される中で、今の子供たちは一層、外国語によるコミュニケーション能力を身につけていく必要があると考えています。

そのために、今の英語の授業をより楽しく、そして、子供たちが英語の発音や文法が少しくらい違っていても、外国の方と積極的にコミュニケーションを図っていかうとする気持ちを高めていくものにしていきたいと考えています。

まず、1つ目に提案された、授業を英語で行うことについてです。

令和3年度から、中学校の英語では、授業は英語で行うことを基本としています。

これは、日本語での文法説明や本文の日本語訳が中心となっている授業から、実際のコミュニケーションの場面で英語を使って互いの考えや気持ちを伝え合う授業へ見直していかなければならないという思いを込めたものです。

次に、2つ目の提案である、ALTの先生との英語のやりとりの時間を確保することについてです。

御提案いただきました学習活動の内容は、限られた時間を有効に活用し、学習を深めていく効果的な場面の設定であると思います。

これまで習った語彙や表現を使って、外国語で自分の思いを何とかして伝えようとする体験を通してコミュニケーションを図る力を身につけるとともに、外国語への興味・関心を高めていくことにつながっていくと考えています。

次に、3つ目の提案である、校外学習等で、直接英語で会話する機会をつくることについてです。

御提案していただいたように、英語の授業で学んだことを使って学校外学習等で、広島を訪れる観光客に英語で地域紹介を行ったり、観光ガイドを行ったりする取り組みも考えられると思います。

そのほか、直接会話をする方法の一つとして、ICT機器・パソコンを使って海外と教室を実際に映像でつないで習ったことを使ってみるという方法もあります。

県教育委員会といたしましては、今後、英語を使用する場面がふえ、その必要性が高まる中、広島県の子供たちがより英語の授業が楽しい、積極的に英語によるコミュ

ニケーションを図っていきたいと思ってもらえるものにしていくことで、英語教育の充実に取り組んでいこうと思います。

質問3 1人1台のタブレットについて

インターネットが身近なものとなり、簡単に情報が手に入るようになりましたが、その一方で、たくさんの情報の中から正しい情報を集めて活用する力が必要になっていきます。そのため、教育にインターネットを活用した情報通信技術——ICTを取り入れ、一人一人の情報活用能力を高めようということで、現在、電子黒板やタブレット端末などの導入が進められています。

文部科学省の調査結果によると、広島県の教育用コンピューター1台当たりの児童生徒数は6.5人で、全国平均5.4人を下回り、全国42位となっています。県内では、江田島市など2市5町は全国平均を大きく上回っています。しかし、福山市や府中町は県全体の平均から大きく下回るなど、各市町で導入状況に差があります。

ICTは、視聴覚教材などで、効率のよい学習指導ができるというよいところがあります。例えば、小学校では、体育のマット運動で、児童の演技を録画し映像で見直すことで改善方法を、理科では雲の量、動きなどを気象衛星の映像と比べ実際に観察できない部分を目で見て理解できるようにするなど、さまざまな科目で導入されています。文部科学省の調査研究では、生徒の関心、意欲、態度で効果があるという結果も出ています。

そこで、提案です。

ICT教育を進めていくために、早期に児童生徒が1人に1台タブレットを持てるようにすべきだとは思いますが、費用がかかるので、学生価格を実現し、低価格で購入できるようにしてはいかがでしょうか。親の負担も軽くなりますし、みずからが購入することで大切に扱うとともに、正しい使い方を親子で考えるきっかけにもなると思います。また、電子教科書の活用や、宿題、親への通知など、できるだけ電子化することで、重い荷物を軽くすることもできます。

答弁（教育長）

全ての児童生徒が1人1台タブレット端末を持つことができれば、さまざまな教科等において、手軽に写真や動画等の資料を活用できるだけではなくて、例えば、一人一人がタッチペンでタブレット端末に書き込んだ考えを電子黒板で見せ合って交流し、

さらに考えを深めていくなどの学習が簡単になる等、より効果的な学習が行えるようになると思います。そして、教材や家庭への配付物などの電子化によって、通学時の皆さんの荷物が少しでも軽くなることにつながるのではないかと思います。

一方で、タブレット端末の購入費や維持費などの課題があります。

現在、文部科学省が、ICTを活用した教育を進めるために低価格で端末を購入する方法を検討されていますので、広島県もその情報を収集しながら対応を検討していこうと思います。

今後、AI技術の発達が進む中で子供たちの情報活用能力を育成することは重要であると考えていまして、引き続き、その基盤となる学校のICT環境の整備に努めていこうと思います。